事業所自己評価シート

令和６年度

職員による自己評価

Ａ環境面
職員配置については適切、どちらともいえないとの意見が殆どであった。多機能型拠点の強みを活かして施設全体で協力することが出来ている。

Ｂ児童への支援内容
多職種で計画の立案を行い、振り返り、評価が出来ている。人との繋がりを大切にし、友達や大人と様々な体験や活動を通して楽しめるように支援出来ている。

Ｃ関係機関との連携
学校とは子ども達の課題解決、情報共有の為にカンファレンスが複数回出来ている。他事業所や在宅サービスの事業所とも随時、情報共有を行っている。

Ｄ保護者への説明責任・信頼関係
連絡帳を活用し、送迎時や面談時にも説明することが出来ている。又、年２回保護者と保護者参加型ワークショップ開催している。参加出来ない保護者への説明が課題である。

Ｅ非常対応
年に 2 回地震と火災想定の避難訓練を実施している。活動の要素の中に防災を取り入れている。送迎中の緊急時（体調不良、災害、事故）シュミレーションも定期的に行っている。メール活用し災害時の安否確認の訓練を行っている。

保護者による評価

Ａ環境面
活動スペースや職員配置、バリアフリー化等の評価は概ね高い評価であった。約２割の方からどちらともいえない、わからないという評価であった。

Ｂ児童への支援内容
個別支援計画については本人、保護者の意見が反映された計画になっているとの評価であった。活動についても同じ活動にならないように工夫されているとの評価であった。放課後児童クラブとの交流や障害がない子どもと活動する機会の有無については３分の１の方がどちらともいえないとの意見であった。

Ｃ事業所からの情報発信
事業所からのお便りや広報誌、ブログについて楽しみにしているとの評価であった。面談や助言に関して高い評価が多かった一方、わからない、どちらともいえないという意見が複数あった。

Ｄ保護者への説明責任・信頼関係
日々の支援については送迎時に直接聞けているとの評価であった。面談時にも保護者の知らない一面など多くの事を聞けているとの評価であった。

Ｅ非常対応
非常時の対応や避難訓練の実施等、概ね評価を頂いているが、災害時の備えや定期的な訓練の実施、その他訓練についてどちらともいえない、わからないとの意見が約２割あった。

事業所内での分析

【共通点】
・支援について職員と保護者の間で送迎時のコミュニケーションが取れている。面談時にもこちらが伝えたい事が伝えられている。保護者が聞きたい事についても話すことが出来ている。
・活動等のスペースについて十分確保されているかわからない、どちらともいえないという意見が職員、保護者双方から聞かれている。
【相違点】
・事業所側から普段からのお知らせや発信、送迎時や面談時にも話はさせてもらっているが児童への支援について、情報発信、非常対応について保護者からわかないという意見が少数ではあるが一定数いる。

分析・検討してみて…

事業所の強み

送迎時や面談時に支援、看護、リハにより細かな聞き取りを行い、計画や日々の支援に活かすことが出来ている。
多機能型拠点内の１つの事業である事や支援学校が隣にあるので柔軟な対応が可能である。
クリニック併設で医師、看護師の医療的な体制がとれている。

事業所の改善点

お知らせ、活動内容や避難訓練の実施等、保護者の方がもっとわかりやすいように、お手紙やホームページ、SNS 等を活用していく。
活動スペースの確保といった環境面については法定上のスペースは満たしているので整理整頓や環境設定を検討していく。

事業所の改善への取り組み

・細やかな説明は面談時に引き続き行っていく。情報発信についてはホームページでのブログの更新頻度を上げていく。SNS については運用が始まったばかりなので慎重に進めていく。
・活動のスペースについては、どうすれば子ども達が安全に過ごせるのか事業所全体で話し合いを持ち、検討していく。また、その結果を保護者会等で報告していく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

こちらとしてはしっかり伝えているつもりでも相手に上手く伝わっていないという事を改めて感じた。情報発信の方法は今後も検討していく必要性があり、伝え方に関しては私だけでなく事業所全体で相手に伝えられる力をつけられるように進めていく必要性がある。
今年度は「人とのつながり」「達成感」といったテーマの基に支援を行ってきた。その中でこども達の成長を見守ることができている。こどもをお預かりする上で保護者との協力や信頼関係はとても重要なので信頼される事業所になれるように引き続き努めていきたい。

事業所名　放課後等デイサービスこまち
担当者　井上　淳